

外国史Ⅱ

科目ナンバリング HSG-102
【Ⅲ】 選択 2単位

1. 授業の概要(ねらい)

春期に続くドイツ史、秋期はドイツ近現代史です。通史的な扱いとテーマ別の組み合わせになります。テーマは、ドイツのネーション、近代という時間の観念、近代家族の成立、日本とドイツなどを考えています。詳しくは、各回の授業内容を見てください。

2. 授業の到達目標

1. 近代とは何か、われわれの時代とどのように関係しているかを思考し、近代の特性について説明できる。
2. ヨーロッパドイツ史に特有の歴史概念をレポートなどで用いることができる。
3. ドイツと日本の近現代史を比較して論ずることが出来る。

3. 成績評価の方法および基準

授業時試験(80%)、小レポート(20%)

4. 教科書・参考文献

参考文献

坂井榮八郎

エルネスト・ゲルナー ドイツ史10講

民族とナショナリズム

岩波新書

岩波書店

5. 準備学修の内容

上記の参考文献を手元において、いつでも参照できるようにしてください。講義の際に紹介する文献を読み、関心あるテーマを探して講義に臨む。

6. その他履修上の注意事項

インターネットの検索だけでなく、紙の本を読む。

7. 授業内容

- 【第1回】 フランス革命とナポレオン解放運動を通してドイツ・ナショナリズムの始まりについて学ぶ
- 【第2回】 近代ナショナリズムについて基本的なとらえ方について学ぶ
- 【第3回】 三月前期のドイツの政治状況について学ぶ
- 【第4回】 近代史の転換点としての1848年革命について学ぶ
- 【第5回】 プロイセンとオーストリアがドイツ統一をめぐる抗争したことを学ぶ
- 【第6回】 ドイツ帝国に関するドイツ特有の道というとらえ方について学ぶ
- 【第7回】 工業化のもたらした社会構造の転換について学ぶ
- 【第8回】 近代家族の特質について学ぶ
- 【第9回】 モデルネ(近代)という概念について学ぶ
- 【第10回】 第1次世界大戦の世界史的立場について学ぶ
- 【第11回】 大戦間期の政治と文化について学ぶ
- 【第12回】 ドイツ近現代にもたらしたナチズムのもたらした衝撃について学ぶ
- 【第13回】 冷戦下のドイツについて学ぶ
- 【第14回】 ドイツと比較しながら日本の戦後史を考える材料をつかむ
- 【第15回】 全体の振り返りと試験